



1988.4.1  
No. 2788

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電二九三五・六・公衆〇四七二二二七七・二〇七）

# 実力反撃こそ勝利の道

# 弾劾！

# 「4.1一周年」

# 「4.1」

分割・民営化強行を絶対に忘れない！

「国鉄分割・民営化」の強行から一周年をむかえた。昨年の四月一日という日は、新たなる闘いに突入した日として、生涯われわれの胸に深く刻み込まれるであろう。

日帝・中曽根は、「戦後政治の総決算」をブチ上げ、戦後の「民主主義」と「平和」を支えてきた労働者・人民の思想を徹底的に破壊しつくして、天皇制思想をうえこみ、軍事大国化へと、いつでも侵略戦争に突入できる国家造りに血道をあげてきた。

そうであるがゆえに敵は、労働運動の中軸を担い闘いぬいてきた国鉄労働運動の解体に、全体重をかけたのであった。つまり、「分割・民営化」攻撃とのたたかいは、労働者の未来と労働運動の存亡をかけたたたかいであったのである。

たたかったからこそ勝利した

そして、われわれは、この決戦に勝利した。敵に一步もひるまず、真正面からたち向い、二波のストライキ、数波の強力順法闘争をもって唯一闘いぬいたのである。

「闘う以外に労働者は生きられない」その事をもつて全国の国鉄労働者にさし示したのだ。そしていま、動労千葉は不動の団結を守りぬき、反撃を準備し、四万の国労組合員は歯をくいしばり、たたかう旗を守りぬいている。

「分割・民営化」の失敗は必ず明らかになる

JR当局とその手下JR鉄道労連・革マル松崎は、「六三・三ダイ改」と「四・一周年」の大反動キャンペーン：：はては、制服まで変え、「JRは変わりました。明るくなりました」とさわざたてている。だが、それは「分割・民営化」の破産のおおいかくしにすぎない。考えても見よ！「黒字、黒字」とさわぐその裏には、定員割れの人件費がその大部分をしめ、「小集団のタダ働き」

があつてではないか。また、清算事業団の膨大な赤字は、雪ダルマ式に増える一方で、解決不能となっている。まさに、「バラ色の鉄道」など夢のまた夢でしかなく、かれらの言うことなすことごとごとくデタラメであつた、と満天下にパクロしてしまつたのである。

そうであるからこそ、今日、日帝・JR当局の攻撃はますます凶暴化し、「殺人的労働強化」「命令と服従」だけがまかり通る奴隷的労働支配の強要」をもって、国鉄労働運動の解体を策しているのである。

鉄道労連を解体し、スト体制で反撃を！

われわれはこの一年、反撃の時をまっていた。もうガマンならない。今こそ怒りをたたきつけよう！いかなる差別・選別も許すな！原職奪還をかち取るう！奴隷的労働支配をブチこわそう！

同時に、われわれは、鉄道労連・革マル松崎を解体しつくさなくてはならない。革マルは、ファシストである。「大東亜共栄圏は必要」と侵略戦争を日帝・支配者にけしかけ、労働者には「タダ働きしろ」と叫んでいる。「分割・民営化」以後も二〇名をこえる国鉄労働者を自殺においこんだのも松崎だ。

いまこそ、鉄道労連を解体・一掃し、動労千葉と共に歩む国鉄労働運動を構築し、分割・民営化体制を粉碎しよう！四・九国鉄労働者集会に結集しよう！

本日  
弾劾一周年  
統一  
行動日